

学校教育の指針

令和7年度の重点



最重要の教育課題

地域に根ざしたキャリア教育の充実 “「問い」を発する子ども”の育成



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝 早起き 朝ごはん
生活リズムは全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事
規則 約束 守るわか杉
- 三 読んで 話して 書いて 高める
「問い」を発する思考力
- 四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア
- 六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢 家族でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志
みんなでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

秋田県教育委員会

本県学校教育が目指すもの

豊かな人間性を育む学校教育

I 思いやりの心を育てる

人間愛の大切さの体得
開かれた心の育成

II 心と体を鍛える

生き抜くたくましさの育成
働くことの喜びの体得と意義の理解

III 基礎学力の向上を図る

自ら学ぶ意欲と態度の育成
幼児児童生徒の個性と能力の伸長

IV 教師の力量を高める

幅広い識見と教育愛の涵養
社会の変化に即応した研修の充実

ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり

※「学校教育の指針」p1～p3参照

生きる力の育成

学校教育共通実践課題

※「学校教育の指針」p6、p7参照

ふるさと教育の推進 ～心の教育の充実・発展を目指して～

本県では、「豊かな人間性を育む学校教育」を目標に掲げ、目指す教育の姿を「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」とし、ふるさと教育の推進を通して、その実現を図っているところです。
「全教育活動を通して取り組む最重点の教育課題」として位置付けている「地域に根ざしたキャリア教育の充実」と「『問い』を発する子ども」の育成への取組を充実させることにより、ふるさと教育の一層の推進を図ります。

【ふるさと教育のねらい】

- 1 ふるさとでのよさの発見
- 2 ふるさとへの愛着心の醸成
- 3 ふるさとに生きる意欲の喚起

【ふるさと教育の目指す人間像】

- 1 郷土の自然や風土を愛する人間
- 2 郷土の歴史や伝統、文化を正しく受け継ぐ人間
- 3 うるおいと活力に満ちた郷土を築く創造性あふれる人間
- 4 郷土の発展に尽くそうとする実践的な人間
- 5 国際社会をたくましく生き抜く人間

ふるさと教育の重点事項

心豊かで、郷土愛に満ちた人間の育成

自ら学び自ら考え、課題を追究する力などの学ぶ力の育成

高い志と公共の精神をもち、秋田の将来を支えていく人材の育成

全教育活動を通して取り組む教育課題

※「学校教育の指針」p12～p26参照

全教育活動を通して取り組む最重点の教育課題

教育課程の編成 学習指導・各教科等の指導

※「学校教育の指針」p27～p59参照

地域に根ざしたキャリア教育の充実

※「学校教育の指針」p8、p9参照

二つの教育課題に対する取組を充実させることにより、ふるさと教育を推進する

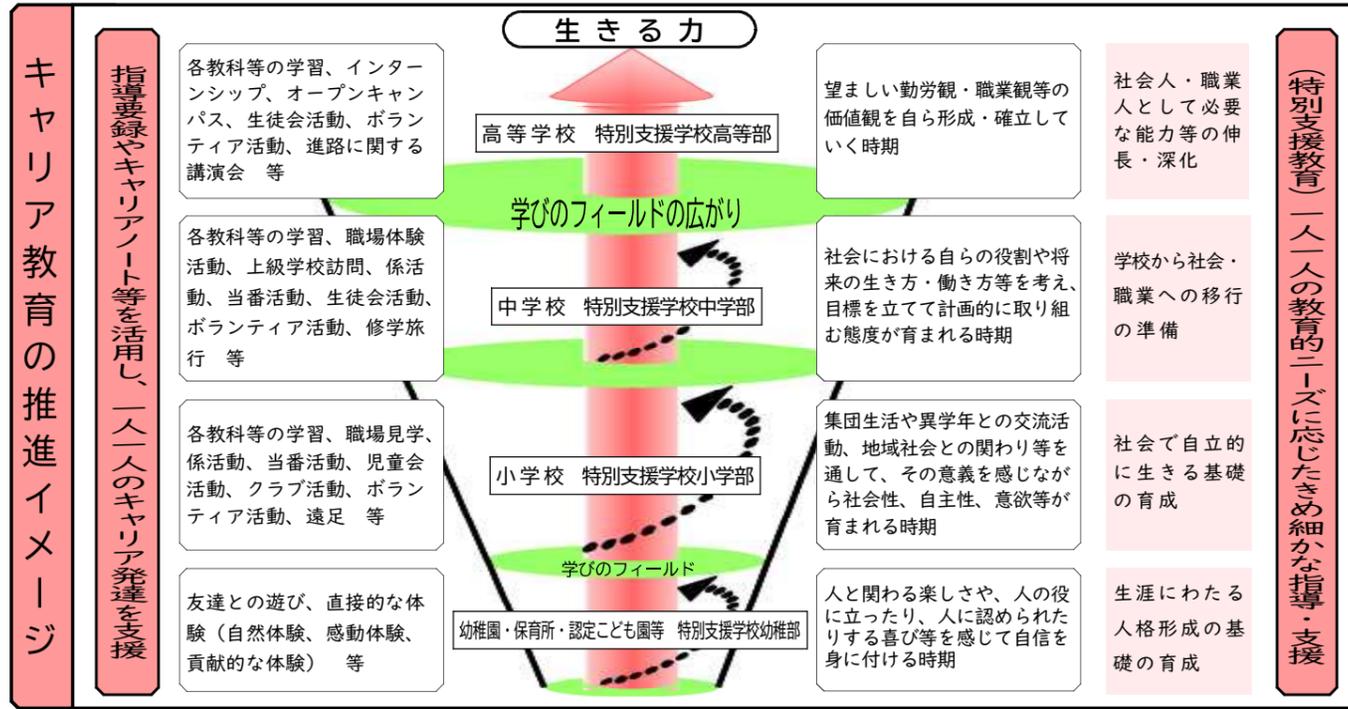
“「問い」を発する子ども”の育成

※「学校教育の指針」p10、p11参照

1 キャリア教育のねらいや成果の発信及び家庭や地域、企業等との共有

2 資質・能力の育成につながる体験活動及び事前・事後指導の充実

3 キャリア発達を一層促すための学校間・校種間連携の推進

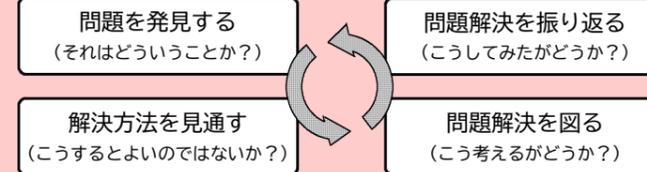


“「問い」を発する子ども”の姿の出発点

公の場で自分の考えを積極的に発言することができ

「問い」を発するとは

充実した取組の積み重ね
問題を発見し、解決するプロセスにおける「問い」の流れ



育みたい資質・能力に着目した“「問い」を発する子ども”の姿

問題を発見し、他者との関わりを通して主体的に問題を解決していく子ども

“「問い」を発する子ども”の育成に向けて

1 様々な教育活動における意図的な手立ての工夫

各教科等において育む資質・能力を明確にした上で、各学校における教育課程を教科等横断的な視点で組み立てるなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図り、意図的な手立てを講じて教育活動の質の向上に努める。

2 「秋田の探究型授業」の基本プロセスを機能させた授業づくりの充実

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通し、学習過程におけるそれぞれの段階を、効果的に機能させた上で一連のプロセスとして関連付けて捉え、授業を展開する。



3 「問い」を発するための基盤となる言語活動の充実

言語活動を取り入れるねらいを明確にし、各教科等の特質に応じてどのような場面で、どのような工夫を行い取り入れるかを考え、その質を高めるとともに、全教職員の共通理解の下、言語環境の一層の整備・充実を図る。

※本重点において、「小・中学校」には義務教育学校、「小学校」には義務教育学校の前期課程、「中学校」には義務教育学校の後期課程をそれぞれ含みます。
表紙の写真提供/左：三種町立琴丘小学校、中央：大仙市立中仙中学校、右：イングリッシュキャンプ(高校教育課英語教育推進チーム)

※『「～大変革の時代～ 新秋田元気創造プラン」』及び『第4期あきたの教育振興に関する基本計画』の施策体系については、「学校教育の指針」p4、p5に掲載しています。

ICTを活用した教育の推進 ▶指針p12、13

①1人1台端末の環境を生かした、学びの質を高めるためのICT活用の推進

- ◇各教科等の特質に応じて、1人1台端末を効果的に活用した学習活動を積極的に取り入れる。
- ◇情報活用能力が段階的に育成されるよう、教科等横断的な視点で計画的にICTの活用を図る。

②組織的・計画的に取り組む情報モラル教育の充実

- ◇情報モラル教育の全体計画や年間指導計画等を実態に即して作成し、教育活動全体で推進する。
- ◇ICTを利用する際のルールやマナー、他者や社会への影響を考え、自身の意志で判断し安全に利用できるように、指導の手立てを工夫する。

③各学校段階を通じたプログラミング教育の推進

- ◇既習の内容等を踏まえた上で、関係する各教科等において児童生徒の発達の段階に応じた指導を行い、プログラミング的思考を育成する。

目指す児童生徒の姿

- ICTを手段として学習や日常生活に活用し、主体的に学習に取り組むことができる。
- 情報社会での行動に責任をもち、自ら判断してICTを正しく活用し、問題を発見・解決することができる。

持続可能な社会の創り手を育成する環境教育の推進 ▶指針p14

①各教科等を通じて横断的・総合的に取り組む環境教育の推進

- ◇各教科等における学習を相互に関連付けながら、ESDの視点を踏まえた環境教育を推進できるように、全体計画や年間指導計画等の見直しを進める。

②発達の段階に応じた豊かな自然体験活動等の推進

- ◇幼児児童生徒それぞれの発達の段階に応じて、学びや活動に深まりや広がりをもたせることができる自然体験活動等を、教育課程に適切に位置付け、計画的に実施する。

③校種間連携及び家庭、地域、社会教育施設等との連携を図った環境教育の推進

- ◇学びや体験の充実を図るため、ねらいや活動内容等を共有し、校種間の円滑な接続を図るとともに、家庭、地域、社会教育施設等と連携して環境教育に取り組む。

目指す幼児児童生徒の姿

- 人間と環境との関わりについての理解を深め、環境を大切にすることができる。
- 自らの責任ある行動をもって、持続可能な社会づくりに主体的に参加することができる。

グローバル社会で活躍できる人材の育成 ▶指針p15

①ふるさとや異文化に対する理解の促進

- ◇各学校のふるさと教育における取組や各教科等の学習を踏まえ、日本や秋田、自分の住む地域の歴史や伝統、文化等について理解したり、そのよさを発信したりする活動の充実を図る。
- ◇世界の様々な国や人々に関心をもち、共通点を理解したり、互いの文化の違いを受け入れたりする活動の充実を図る。

②課題解決に向けて行動できる資質・能力の育成

- ◇グループで話し合ったり、全体で学び合ったりするなど、多様な他者との関わりを通して、協働的に課題解決する活動の充実を図る。
- ◇児童生徒の発達の段階に応じて、情報活用能力や英語によるコミュニケーション能力を体系的に育成しながら、自分の考えや必要な情報を相手に分かりやすく伝える活動の充実を図る。

目指す児童生徒の姿

- 社会の問題に目を向け、多様な価値観をもつ人々と協働して課題を解決しようとする態度を身に付けている。
- 自分の意見や考えを明確にし、目的意識をもって相手に分かりやすく伝えることができる。

特別支援教育 ▶指針p16、17

①一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実

- ◇個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用と引継ぎにより、一貫した指導・支援や合理的配慮の提供を行う。

②学習指導要領を踏まえた教育課程の編成と実施

- ◇全教職員が特別の教育課程を理解し、児童生徒や学級の実態に応じて教育課程を編成・実施する。
- ◇通常の学級と特別支援学級・特別支援学校における組織的・計画的な交流及び共同学習と障害理解授業の推進を図る。

③管理職のリーダーシップによる校(園)内支援体制の機能強化と全教職員の理解・取組

- ◇特別支援教育の推進を各学校(園)の運営計画に明確に位置付け、全教職員の理解を図る。
- ◇特別支援教育の年間計画に基づく組織的な取組として校(園)内研修の工夫に努め、充実を図る。

目指す幼児児童生徒の姿

- 学習に興味・関心や意欲、目標をもち、自己の力を可能な限り発揮することができる。
- 活動しやすいうように自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人に支援を求めたりすることができる。

※ □のチェックボックスを活用して自己評価 下線は各教科等で目指したい「問い」を発する子ども”の姿に関するもの

人権教育

▶指針 p 18、19

①教育活動全体を通じた人権教育の充実

◇教職員自らの人権感覚を磨くとともに、各教科等の指導内容を人権教育の視点から検討し、教育活動全体に人権教育を適切に位置付ける。

②人権問題の解決に向け実践する態度につながる取組の推進

◇育みたい資質・能力を明確にし、人権尊重の視点に立った学校（園）・学級づくりを推進する。
◇自他の人権を尊重し、守ろうとする意欲を高めるために、互いの個性や価値観の違いを認め合える環境づくりに努める。

③学校（園）、家庭、地域、関係機関の連携

◇発達の段階や実態を踏まえて系統的・計画的に人権教育を推進するために、学校（園）間・校種間の連携・協働を促進する。
◇家庭、地域、関係機関と連携し、幼児児童生徒が多様な文化及び価値観を尊重する意識を高める。

目指す幼児児童生徒の姿

- 人権の意義や内容、重要性を理解するとともに、自他の大切さを認め、多様な文化及び価値観を尊重することができる。
- 自他の人権を尊重し、人間関係を調整したり、正しい言動を選択したりするなど、態度や行動に表すことができる。

生徒指導

▶指針 p 20～24

①発達支持的生徒指導と課題未然防止教育の充実

◇集団の中で自己肯定感や自己有用感を育むことができるよう、組織的に支援を行う。
◇児童生徒にとって、学校が安全・安心な居場所となるよう、授業や行事等を通じて魅力ある学校づくりを推進する。

②生徒指導体制の確実な構築

◇不登校や問題行動等の課題への早期発見対応を図るため、年度当初に方針や基準を明確にし、役割分担による組織的な取組を推進する。
◇教育相談の機会を計画的に設定し、個々の特性等に応じた指導・援助を行う。

③学校を中心とした連携・協働のシステムづくり

◇生徒指導上の諸課題に、学校がチームで対応できるように、日常から家庭、地域社会、関係機関等と連携・協働するネットワークを構築する。

目指す児童生徒の姿

- 他者との関わりの中で、自他の個性を尊重しながら、共感的な人間関係を形成することができる。
- 物事を正しく判断し、自己決定できる力を身に付け、社会的ルールに基づいて行動することができる。

道徳教育

▶指針 p 25

①PDCAサイクルを機能させた組織的な道徳教育の充実

◇道徳教育推進教師等を中心に、道徳教育の実施状況について適切な時期に評価し、全体計画やその別葉、年間指導計画等を必要に応じて修正しながら指導に当たる。
◇幼児児童生徒の実態や成長の様子等を共通理解した上でそれぞれの段階における重点目標を設定し、全教職員の協力体制の下で共通の実践を行う。

②家庭や地域社会との連携の推進

◇学校（園）が、家庭、地域社会と道徳教育の実情等について情報交換する場を設定し、目指す幼児児童生徒像の共通理解を図る。
◇保護者や地域の人々に対して道徳科の授業を公開したり、道徳教育に関する諸活動への参加や協力を得たりすることを通じ、学校（園）、家庭、地域社会が連携して道徳教育を行う意欲を高める。

目指す幼児児童生徒の姿

- 道徳的諸価値の理解に基づき、自己の生き方や人間としての在り方生き方について考えている。
- 学校（園）、家庭、地域社会において、道徳教育で学んだことを生かして生活している。

防災教育

▶指針 p 26

①防災教育の充実

◇地域の災害リスク及び幼児児童生徒の発達の段階に応じた実践的な避難訓練や、危険予測学習等による実効的な指導の充実を図る。

②安全管理の充実

◇実効的な取組に結び付くよう学校安全計画及び危機管理マニュアルの見直しを図るとともに、気象情報やハザードマップ等を活用した防災体制の強化に努める。
◇幼児児童生徒の視点を加えた安全点検を実施して安全管理の充実を図る。

③組織活動の充実

◇「地域学校安全委員会」等を活用し、幼児児童生徒の安全を確保する組織体制の整備を図る。
◇学校（園）や地域の実態に応じた実践的な教職員研修を計画的に実施する。

目指す幼児児童生徒の姿

- 自分の命は自分で守るための判断力や行動力が身に付いている。
- 発達の段階に応じて、学校（園）、家庭及び地域の安全活動に進んで参加、貢献することができる。

国語

▶指針 p 32、33

①資質・能力の確実な育成に向け、指導と評価の一体化を図った授業づくり

- ◇課題解決に向けた試行錯誤の過程で、資質・能力を活用・発揮する場面が生まれる言語活動を構想する。
- ◇育成を目指す資質・能力を活用・発揮している児童生徒の記述や発話等を具体的に想定した評価規準によって適切に評価し、児童生徒の学習や教師の指導の改善につなげる。

②言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に課題を解決するための指導

- ◇言葉に着目し、個で思考・判断・表現する活動と集団で吟味・検討する活動とを必要に応じて往還するなど、課題解決につながる学習過程を構想する。
- ◇児童生徒が学校図書館やICT等を目的に応じて主体的に選択し活用する場面を、学習過程に計画的に位置付ける。

令和6年度 成果と課題

- 育成を目指す資質・能力を明確にし、児童生徒が必要感をもって学習に取り組むことができる単元を構想している。
- ねらいを達成した児童生徒の姿を具体的に想定した評価規準を基に学習の状況を適切に評価し、学習や指導の改善に生かす必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 身に付けた資質・能力を自覚し、学習における課題の解決や生活における人との関わりの中で活用・発揮することができる。
- 話や文章等の言葉に着目し、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができる。

社会、地理歴史、公民

▶指針 p 34、35

①社会的な見方・考え方を働かせて考察を深める力を養うための指導と評価の充実

- ◇調べた事実や既習事項を基に学習問題を追究する場面で、適切な視点で考察を深めることができるよう、発問や資料を吟味する。
- ◇考察を深め、ねらいを達成した姿を具体的に想定した上で、学習状況を適切に見取り、評価したことを指導の改善に生かす。

②主体的な問題解決を通して、よりよい社会の在り方を考えようとする態度を養う学習活動の充実

- ◇学習の見通しをもったり、単元等の学習過程の適切な場面において自分の言葉で振り返ったりする活動を重視する。
- ◇既習事項を生かして、よりよい社会の在り方について複数の立場や意見を踏まえて考察、構想（選択・判断）する活動を取り入れる。

令和6年度 成果と課題

- 立場や視点を明確にし、考察したことを交流する場を設けるなど、多面的・多角的に考察するための手立てが講じられている。
- 育成したい資質・能力を明確にし、指導と評価の計画を作成した上で、学習状況を適切に見取り、指導の改善に生かす必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 社会的事象について、社会的な見方・考え方を働かせて考察し、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 社会との関わりを意識し、問題解決に向けて見通しをもち、学習を振り返ったり見直したりしながら、粘り強く取り組むことができる。

算数、数学

▶指針 p 36、37

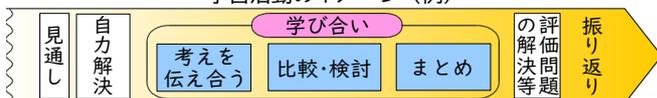
①自ら問いを見だし、数学的な見方・考え方を働かせながら問題解決に取り組む授業づくり

- ◇問題場面の設定や問い方を工夫することで、必要感や目的意識をもって問題解決に取り組めるようにする。
- ◇問題解決の過程を振り返る場面を設定し、働かせた数学的な見方・考え方を今後の学習に生かすことができるようにする。

②児童生徒一人一人が「分かった」「できた」を実感できるようにする手立ての工夫

- ◇一人一人の考えを見取り、困っていることなどを生かして、ねらいの達成につながる学び合いを展開する。
- ◇学んだことを適用したり、発展的に考えたりする場面等を設定し、一人一人が学びを深めることができるようにする。

学習活動のイメージ（例）



令和6年度 成果と課題

- 単元を通して育成する資質・能力を踏まえ、児童生徒が働かせる数学的な見方・考え方を明確にした授業が展開されている。
- 児童生徒一人一人が、自らの学習状況に応じて学びを深めることができるようにする必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 目的意識をもって数学的活動に取り組み、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能を関連付けて考えることができる。
- 数学のよさや学ぶことの楽しさを実感し、学んだことを生活や今後の学習に生かしたり、新たな問いを見いだしたりすることができる。

※ □のチェックボックスを活用して自己評価 下線は各教科等で目指したい「問い」を発する子ども”の姿に関するもの

①予想や仮説を生かし、観察、実験を充実させるための指導の工夫

- ◇根拠のある予想や仮説を発想することができるよう、既習の内容を確認したり、生活経験を想起したりする場面を設定する。
- ◇児童生徒が予想や仮説を基に、観察、実験の方法や条件を考えたり観察、実験において着目する点を確認したりする活動を取り入れる。

②観察、実験の結果を基にした考察の充実

- ◇共通点や差異点（相違点）、要因、規則性等の視点を組み入れた発問を行うとともに、一人一人が自らの言葉で考察し表現する時間を設ける。
- ◇学習課題（問題）に正対した結論を導き出すことができるよう、児童生徒相互の関わりを通して、互いの考えの妥当性を検討する活動を取り入れる。

令和6年度 成果と課題

- 発想した予想や仮説のとおりであれば、どのような観察、実験の結果が得られるかを考える場面が増えてきている。
- 観察、実験を行う目的をより明確なものにするとともに、考察の内容をより妥当なものにする必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 自ら発想した根拠のある予想や仮説を基に、見通しをもって学習課題（問題）の解決に取り組むことができる。
- 自然の事物・現象について、科学的な言葉や概念を使用して、考えたり説明したりすることができる。

①活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、気付きの質を高める指導の充実

- ◇活動や体験を通して気付いたことを基に考えることができるようにするため、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を取り入れる。
- ◇「*四つの目」の基本姿勢で見取りながら、児童の気付きに共感したり、問い掛けたり、価値付けたりするなど、支援を工夫する。
*「温かい目」「広い目」「長い目」「基本の目」

②幼児期における学びや各教科等との関連を生かした指導の充実

- ◇幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりに、スタートカリキュラムを学校全体で編成・実施することにより、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。
- ◇生活科と各教科等のそれぞれで身に付けた資質・能力を、相互の学習活動で発揮することができるようにするため、単元配列表を活用して両者の関連を図った単元を構想し、展開する。

令和6年度 成果と課題

- 活動や体験の繰り返しや試行錯誤を大切にしながら、授業づくりが行われている。
- 活動や体験を通して生じた児童の気付きの質を高める指導を更に工夫する必要がある。

令和7年度 目指す児童の姿

- 見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を行うことで、質の高い気付きを生み出すことができる。
- 活動や体験を通じた学びを実生活や各教科等と関連付け、自分自身の成長を実感することができる。

①コミュニケーションを図る資質・能力の確実な育成に向けた指導の充実

- ◇言語材料を、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等と関連付けて活用し、相手に応じて適切な表現を選択しながら話したり書いたりして伝え合うことができるよう、学習過程の改善・充実を図る。
- ◇児童生徒が必要に応じて、ALT等との英語によるやり取りをしたり、ICTを主体的に活用したりすることを通して、情報や互いの考えなどを発信したり共有したりできるようにする。

②言語活動における学習状況の見取りを生かした指導と評価の充実

- ◇育成を目指す資質・能力を明確にし、目標を達成した児童生徒の姿を具体的に想定した上で、単元や授業を構想する。
- ◇言語活動で表出した変容を見取り、中間指導の場面で定着を図りたい表現を全体で共有させたり、必要に応じて練習する場面を設けたりすることで、児童生徒の学習の改善につなげる。

令和6年度 成果と課題

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じ、伝えたい内容や必要な表現を自ら考えて伝え合う言語活動が展開されている。
- 言語材料について理解したり正しく活用したりするための指導を必要に応じて行い、学習内容の定着を図る必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて言語材料を選択しながら、相手意識をもって適切に伝え合うことができる。
- 言語面と内容面の両面から自身の言語使用を振り返り、目的達成に向けて改善点を考え、主体的に言語活動に取り組むことができる。

①知覚したことと感受したことを関わらせながら音楽活動に取り組む授業づくりの充実

- ◇児童生徒が思いや意図をもって音楽表現することができるよう、音楽を形づくっている要素を適切に選択したり関連付けたりして授業を構想する。
- ◇知覚したことと感受したことを関わらせながら深めた考えを基にして、表現を工夫したり音楽のよさを味わったりする活動を取り入れる。

令和6年度 成果と課題

- 知覚したことと感受したこととの関わりを基にした音楽活動が展開されている。
- 個の考えや表現などを生かし、他者と協働しながら音楽活動を充実させる必要がある。

②音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを通じた音楽活動の充実

- ◇児童生徒が音で試したり音を聴いて確かめたりする活動を通して、自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合うことができるようにする。
- ◇音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値を考えたりすることができるよう、他者と協働しながら音楽活動と言語活動を行き来する場面を設定する。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 知覚したことと感受したことを関わらせながら深めた考えを基に、音楽表現を生み出したり、音楽のよさや価値を実感したりしている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを通して、個々の学びを深め、他者と協働しながら音楽活動に取り組んでいる。

①表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実

- ◇児童生徒の学習経験を確認し、各学年における指導事項や内容の取扱いと指導上の配慮事項を踏まえて、系統的に育成する資質・能力が身に付くよう指導計画を作成する。
- ◇児童生徒の表したいことや主題を基に、表現したり鑑賞したりすることができるよう、学習のねらいに応じて、発想や構想する際も、鑑賞する際も双方に働く中心となる考えを明確にする。

令和6年度 成果と課題

- 豊富な材料や試す場所が準備され、児童生徒が表したいことや主題を基に、試行錯誤しながら活動できる学習環境が整えられている。
- 指導と評価の一体化を図るために、ねらいと学習活動及び評価場面を整合させ、児童生徒の学習状況を見取り、評価する必要がある。

②育成を目指す資質・能力を明確にし、活動の過程を重視した指導と評価の充実

- ◇題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、指導に生かす評価と記録に残す評価について時期や場面を精選し、児童生徒の学習状況を把握する方法を工夫して評価する。
- ◇題材を通して育成する資質・能力及び造形的な視点を踏まえ、一人一人の見方や感じ方、発想や構想、表現の工夫に対して、価値付けたり指導したりする。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 表現及び鑑賞の学習を通して、何を学ぶかを意識するとともに、学習を振り返って自身の学びや変容を自覚することができる。
- 自身の学びを生かしながら、主体的に表現及び鑑賞活動に取り組み、造形的な創造活動のよさを実感することができる。

①体育の見方・考え方を働かせ、多様な関わりから運動の大切さを実感できる指導の工夫

(運動に関する領域)

- ◇児童生徒の興味・関心と見方・考え方を結び付けられるよう、効果的な教材や発問を準備するなど、指導方法を工夫する。
- ◇ねらいを達成した児童生徒の姿を明確に示した上で、児童生徒の実態や運動の特性を踏まえた学習過程を工夫する。

令和6年度 成果と課題

- 児童生徒が「できた」を実感できる指導の工夫により、運動を楽しんだり、喜びを味わったりする授業が展開されてきている。
- 資質・能力の育成に関わる指導内容の関連付けや、単元の計画を工夫する必要がある。

②健康・安全に関する実生活の課題を発見し、解決するための指導の工夫

(保健に関する領域)

- ◇健康・安全の大切さを実感できるよう、「課題発見」「比較」「関連付け」等の活動を効果的に取り入れる。
- ◇健康課題の発見や解決をするために、習得した知識を生活に適用したり、応用したりする学習過程を工夫する。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方を通して、自ら進んで運動に親しみ、運動の大切さを実感することができる。
- 情報を適切に選択・収集・活用し、健康や安全に関する課題を発見・解決することができる。

※ □のチェックボックスを活用して自己評価 下線は各教科等で目指したい「問い」を発する子ども”の姿に関するもの

① ^{*1}生活や ^{*2}社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決を図る問題解決的な学習の一層の充実

- ◇児童生徒の発達の段階を踏まえ、系統的及び総合的に学習が展開されるよう、^{*3}題材（単元）を設定する。
- ◇教科の特質に応じた見方・考え方を働かせている姿を明確にした上で、児童生徒が考えを構想したり表現したりする場面を一連の学習活動の中に設定する。

② 児童生徒の主体的な取組や、教師の指導改善につながる評価の工夫

- ◇自己評価や相互評価の場面を設定し、児童生徒が自らの学びを振り返り、実践を評価・改善することができるようにする。
- ◇育成を目指す資質・能力を基に、題材（単元）の評価規準を明確にした上で、指導のねらいと学習活動との整合を図った指導と評価の計画を構想する。

^{*1}小学校では「日常生活」 ^{*2}高等学校情報では「情報社会」

^{*3}小・中学校では「題材」、高等学校では「単元」

令和6年度 成果と課題

- 児童生徒が習得した知識・技能を実生活に活用できるよう、実践的・体験的な活動の充実に努めている。
- 題材（単元）を通して育成を目指す資質・能力を明確にした上で、指導と評価の計画を構想する必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 教科の特質に応じた見方・考え方を働かせながら問題を見いだして課題を設定し、解決の見通しをもって学習に取り組むことができる。
- 学習の過程を振り返り、実践を評価し改善策を検討したり修正したりして、主体的に問題解決に取り組むことができる。

《音楽》◇音楽的な見方・考え方を働かせ、自己のイメージをもって音楽表現を工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりするなど、音楽に主体的に関わることができる指導を行う。
◇自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考えたことを基に、曲や演奏について根拠をもって評価する場面を学習過程の中に設定する。

《美術》◇育成する資質・能力及び造形的な視点を踏まえ、ねらいを達成した生徒の姿を具体的に想定した上で指導計画を立てる。
◇幅広い創造活動を通して、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を育成できるよう指導を工夫する。

《工芸》◇用と美の調和や、伝統的な表現のよさを実感できる学習活動の充実を図る。

《書道》◇生徒の実態に合わせて単元で育成を目指す資質・能力を明確化し、適切な目標と評価規準を設定した指導計画を立てる。
◇書写能力の向上を図り、書に関する見方・考え方を働かせることにつながる学習活動によって、書の伝統と文化に関わる資質・能力を育成できるよう指導を工夫する。

- 《農業》◇地域資源を活用し、課題発見及び課題解決を目指したプロジェクト学習の充実
◇農業技術の進展に対応した関係機関等との連携による実践的・体験的な農業教育の充実
- 《工業》◇地域企業や大学等との連携による実践的・体験的な学習活動の充実
◇学びの成果発表等の機会を生かした工業教育の充実
- 《商業》◇課題解決能力を育成するための、地域や産業界等と連携した実践的・体験的な商業教育の充実
◇経済社会の発展を担う職業人として、主体的・協働的に学ぶ態度を養う学習活動の工夫
- 《水産》◇地域資源を活用した商品開発などによる、水産・海洋関連産業の活性化に向けた水産教育の充実
◇地域や関係機関等との連携による実践的・体験的な水産教育の充実
- 《家庭》◇地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動の充実
◇創造性や問題解決能力の育成を重視した、実験・実習の充実
- 《情報》◇情報技術を用いた合理的かつ創造的な課題解決能力の育成を図る実践的・体験的な学習の充実
◇情報技術者に必要とされる知識と技術の習得及び情報活用能力の育成に向けた学習の充実
- 《福祉》◇地域や関係機関等との連携による実践的・体験的な学習活動の工夫
◇福祉ニーズに応える確かな専門性を備えた人材の育成を目指した実践的な福祉教育の充実

①道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深める指導

- ◇児童生徒が自身の体験やそのときの感じ方、考え方を想起し、実感を伴って道徳的価値の理解を深めることができるよう、教材の活用の仕方や発問を吟味する。
- ◇道徳的価値についての理解を基に考えたことや新たに分かったことを確かめたり、自分の生活を振り返ってこれからへの思いや課題について考えたりできる時間を十分に確保する。

②児童生徒の成長につながる評価

- ◇児童生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかについて、学習活動に着目して評価する。
- ◇児童生徒が自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かす。

令和6年度 成果と課題

- 児童生徒が主題に関わる問題意識をもち、考えを深めることができるよう、アンケートを活用したり、発問を工夫したりしている。
- 児童生徒が自身の変容を自覚することができるよう、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める場面を設定する必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、広い視野から自己の(人間としての)生き方についての考えを深めることができる。
- 道徳的諸価値についての理解を深めた上で、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができる。

①探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を明確にした、指導と評価の充実

- ◇育てたい児童生徒像について、全職員による議論を通して共通理解を図り、育成を目指す資質・能力を明確化する。
- ◇各学校が設定する評価規準を、学習活動における具体的な児童生徒の姿として描き出し、期待する資質・能力が発揮されているかどうかを把握して、学習状況の評価や指導に生かす。

②探究的な見方・考え方を働かせ、探究的な学習の過程の質を高める指導の工夫

- ◇幅広く教材研究することを通して、各教科等における見方・考え方を総合的に活用する学習活動を展開する。
- ◇児童生徒が、多様な他者と協働して課題を解決したり、「考えるための技法」を用いた思考を可視化する思考ツールを活用したりする場면을効果的に設定する。

令和6年度 成果と課題

- 全体計画が整備され、探究的な学習が発展的に繰り返されるような単元の構想になってきている。
- 育てたい児童生徒の姿を具体的にイメージして評価規準を設定し、育成を目指す資質・能力の高まりを捉えながら、学習活動の充実を図る必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 課題の解決に主体的に取り組み、自らの学びや変容を自覚することができる。
- 各教科等における見方・考え方を総合的に働かせ、対話等によって考えを広げたり深めたりすることができる。

①実践の場面を意識したよりよい合意形成のための話し合い活動の充実

- ◇児童生徒が多様な意見のよさを生かして合意形成できるよう、それぞれの意見の背景にある思いや願いを共有して話し合うための手立てを工夫する。
- ◇児童生徒が自発的、自治的な活動を展開できるよう、よりよい合意形成を図るための手順や方法について教師間で共通理解するとともに、発達の段階に応じた指導をする。

②目標の実現を目指した主体的な意思決定のための話し合い活動の充実

- ◇児童生徒が話し合いを通して考えを広げ、自分に合った目標を意思決定できるよう、学習活動を吟味するとともに十分な話し合いの時間を確保する。
- ◇児童生徒が意思決定したことに継続して取り組めるよう、実践状況を振り返ったり相互評価したりする場を設定する。

令和6年度 成果と課題

- 議題箱やアンケート等を用いて、児童生徒の思いや願いを引き出し、話し合う必要感や課題意識を高めている。
- 「問題の発見・確認、解決方法等の話し合い・決定、決めたことの実践、振り返り」という一連の活動を積み重ね、よりよい合意形成や意思決定ができるようにする必要がある。

令和7年度 目指す児童生徒の姿

- 学級活動(1)において、実践の場面を意識しながら、提案理由を踏まえて合意形成し、協力して実践することができる。
- 学級活動(2)(3)において、自分に合った具体的な目標を意思決定し、その実現に向けて生活や学習に取り組むことができる。

※ □のチェックボックスを活用して自己評価 下線は各教科等で目指したい「問い」を発する子ども”の姿に関するもの

幼保推進課 ▶指針 p61

- ①**教育・保育の質的向上を図る組織的・計画的なカリキュラム・マネジメントの推進**
 - ◇重点目標を具現化するための全職員による計画、実施、評価・改善の一層の充実
- ②**生きる力の基礎を培う教育・保育の一層の充実**
 - ◇育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点とした指導計画の工夫改善及び評価を生かした保育実践の推進
- ③**乳幼児期の教育・保育と小学校教育の円滑な接続の推進**
 - ◇乳幼児期の発達や学びの連続性を踏まえた連携・協働の充実

義務教育課 ▶指針 p61

- ①**ふるさと教育の一層の推進に向けた取組の充実**
 - ◇「地域に根ざしたキャリア教育」と「『問い』を発する子ども」の育成に向けた取組の充実
- ②**成長や発達の過程を支える生徒指導の充実**
 - ◇関係機関等と連携した不登校の早期発見・早期支援や問題行動の未然防止及び早期発見対応の体制づくりの強化
- ③**資質・能力を育む教育活動の推進**
 - ◇学習指導要領に示されている内容等に基づく学習指導及び学習評価の充実
 - ◇個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学習活動の工夫

高校教育課 ▶指針 p62

- ①**社会的・職業的自立を目指したキャリア教育の充実**
 - ◇社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を育成するための組織的・体系的なキャリア教育の充実
- ②**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進**
 - ◇他者との関わりを通して、主体的に課題を解決するための探究的な学習活動を重視した授業改善の充実
- ③**自他を尊重する心を育む教育活動の充実**
 - ◇道徳教育や人権教育等を通じた自他の大切さを認め合う指導の充実

特別支援教育課 ▶指針 p62

- ①**各校（園）における特別支援教育の推進**
 - ◇合理的配慮を明記した個別の教育支援計画等の作成・活用・引継ぎの促進
 - ◇個々の学習上の困難さに応じた指導・支援の工夫
 - ◇交流及び共同学習と障害理解授業の推進
- ②**特別支援学校における教育の充実**
 - ◇地域の資源や教育力を生かした特色ある教育課程の編成と実施の促進
 - ◇自立活動の指導の改善・充実
- ③**関係機関との連携強化と理解推進**
 - ◇医療、福祉、労働等関係機関との連携強化
 - ◇特別支援教育に関する情報発信等の充実

生涯学習課 ▶指針 p63

- ①**多様な学びの場づくりと学びを通じた地域づくりの推進**
 - ◇多様な人々がつながるネットワークの構築
 - ◇地域づくりを支える人材の養成と育成
 - ◇誰もが生涯にわたって学び続けるための環境の整備
- ②**豊かな人間性を育む教育活動の充実**
 - ◇自然体験活動や集団宿泊体験活動の充実
 - ◇発達の段階に応じた読書活動の推進
 - ◇地域全体で家庭教育を支える体制の整備
- ③**良質な文化芸術に親しむ機会の充実**
 - ◇学校における文化芸術体験活動の充実
 - ◇美術館・博物館の展示・普及事業の推進
 - ◇全ての人に開かれた美術館・博物館づくりの推進

保健体育課 ▶指針 p63

- ①**豊かなスポーツライフにつながる学校体育・運動部活動の充実**
 - ◇望ましい運動習慣の確立と体力の向上に向けた取組の充実及び適正な運動部活動環境の整備・充実
- ②**学校の教育活動全体を通じた保健教育・食育の充実**
 - ◇学校・家庭・地域が連携・協働した望ましい生活習慣の確立に関する取組の充実
- ③**家庭・地域・関係機関等との連携・協働による安全教育の充実**
 - ◇学校（園）や地域の実態及び幼児児童生徒の発達の段階に応じた、実践的・実効的な取組の推進

秋田県民歌

倉田 政嗣 作詞
高野 辰之 修正
成田 為三 作曲

一、秀麗無比なる鳥海山よ

狂瀾吼え立つ男鹿半島よ

神秘の十和田は田沢と共に

世界に名を得し誇の湖水

山水皆これ詩の国秋田

三、篤胤信淵巨人の訓

久遠に輝く北斗と高く

錦旗を護りし戊辰の栄は

矢留の城頭花とぞ薫る

歴史はかくわし誉の秋田

二、廻らす山山靈気をこめて

斧の音響かぬ千古の美林

地下なる鉱脈無限の宝庫

見渡す広野は渺茫霞み

黄金と実りて豊けき秋田

四、民俗勝れて質実剛毅

正義と自治とのさとしを体し

人材遍く育みなして

燦たる理想に燃え起つ我等

至純の郷土と拓かん秋田

学校教育の指針等の資料や秋田県教育委員会が運営するホームページは、こちらから検索できます。

◇令和7年度 学校教育の指針

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/64125>



◇広域職場体験システム（A-キャリア）

<https://common3.pref.akita.lg.jp/syokubataiken/>



◇秋田県プログラミング教育人材バンク

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/40485>



◇わか杉学びネット（学習ポータルサイト）

<https://common3.pref.akita.lg.jp/manabi/>



◇学校改善支援プラン

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/87770>



◇秋田県教職キャリア指標及び秋田県教職員研修体系について

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/32662>



◇秋田県教育委員会研修講座総合案内

<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/70006>

